

平成 23 年度 益田市景観ワークショップ

2011. 12. 18 実施



制作：近畿大学建築学部都市計画研究室



この『ますだだより 赤瓦版』は、平成 23 年度益田市景観ワークショップの内容や感想などを、参加者のみなさんにお伝えするための瓦版です。

はじめに

平成 23 年 12 月 18 日（日）に、島根県益田市の萬福寺の庫裏において平成 23 年度益田市景観ワークショップ「第 3 回 歴史地区」を開催しました。今年度のワークショップは地域別に開催していますが、第 3 回となる今回は、益田地区において、歴史・文化が積層されたまちの魅力と課題を抽出し、さらにそれらを守り、魅力を伸ばすための提案を行いました。



平成 23 年度 益田市景観ワークショップ 第 3 回のテーマは歴史地区！

第 3 回目となる今回は「歴史的まちなみを守る」と題し、益田地区を対象に、ワークショップを開催しました。

はじめに、学生からのミニレクチャー。これまでのワークショップのおさらいに加え、他の地域の修景事例や市民の手による活動事例を通して、歴史を活かしたまちづくりを紹介しました。

その後は、班ごとに萬福寺から暁音寺までのエリアを歩き、地区を考えていく上で活かせるもの、もっと魅力的にできるものを再発見しました。

テーブルディスカッションでは、まち歩きで気付いたまちの魅力・課題を班の中で整理しました。それらを踏まえ、「魅力を活かす」「課題を改善する」ための方法を班の全員で提案しました。歴史ある社寺や遺構はもちろん、益田川や七尾山などの自然も活かして何ができるのか、この地区の景観はどうあるべきか…参加者全員が歴史地区の未来を真剣に議論しました。

最後は全体発表。模造紙と提案内容をまとめた短冊を掲示しながら、会場全体に意見を発表しました。今回は参加者のみなさんが発表し、緊張しながらも自分達の思いを熱く語られました。

最後に、脇田教授・益田市役所建設部田中次長からワークショップの締めくくりの言葉があり、3 回連続で行われた本ワークショップは終了しました。

日 時■ 12 月 18 日（日）
13：30～16：30

参加者■ 31 名（+ 研究室スタッフ 10 名）

会 場■ 萬福寺庫裏

ワークショップの流れ

開会・ガイダンス

近畿大学脇田教授から、今回のワークショップの趣旨説明がありました。

前回の振り返り・レクチャー

これまでのワークショップの内容について近畿大学の学生が紹介しました。また、歴史を活かしたまちづくりについてもレクチャーしました。

まち歩き

まち歩きマップを片手に班ごとに地域を歩き、まちの魅力と課題を感じ取りました。

テーブルディスカッション

まち歩き中に発見した魅力や課題を班内で整理しました。次に出されたそれぞれの意見に対して、魅力を伸ばすための方法や課題の改善方法を提案しました。

全体発表

参加者みんなで協力して、班の提案を会場全体に発表しました。

総括・ワークショップの締めくくり

最後に、脇田教授、田中次長から全 3 回を終えたワークショップの締めくくりの言葉がありました。



各グループのまとめ

第1回 農村の生活景を守る

第2回 漁村の原風景を守る

第3回 歴史的まちなみを守る

1班

メンバー
久城 水津 佐々木
南海 大上 松本 (TL)

*TL: テーブルリーダー



発見

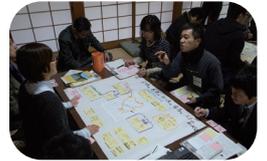
- ・昔の病院が民家に活用され残っていた
- ・水路などの生活観をもっと出せば良い
- ・参道の街灯がデザインされていて良い
- ・趣ある建物がまちに埋もれている

- ・トライアングルゾーンが生かされていない
- ・益田川沿いの建物に統一感が無い
- ・歴史民俗資料館と益田川との繋がりが良い
- ・知名度の低さ
- ・益田川に遊べる空間がない

提案

- ・蔵に昔の写真を展示
→写真展を開催する
- ・地域の情報を共有する仕組みが必要

- ・河川敷遊歩道をつくる
- ・水質向上させる
- ・酒蔵利用について意見を募集
- ・小路マップ作成
- ・景観に配慮した建物を建てる
- ・各所の案内板を大きくする



町歩きで酒蔵の中にお邪魔させていただいた事から議論が発展し、提案にまで結びつけられました。



中原酒造の酒蔵活用

- ・公募で活用提案をする
→写真展
→合コン

益田川に関心を!

- ・川の情報共有の仕組みを作る
- ・身近に感じてもらえるように遊歩道を作る

統一感のある町並みを!

- ・今あるもの
→色調だけでも統一させる
- ・今後建つもの
→景観に配慮するルールを作成

2班

メンバー
岩井 木原 寺戸 増野
藤原 中尾 (TL)

*TL: テーブルリーダー



発見

- ・歴史ある水路に綺麗な水が流れていた
- ・益田川をつないだ歴史的なものを活かす
- ・益田川の風景、水の音が良い
- ・葦の繁茂が気になる

- ・三宅御土居の大木を残したい
- ・七尾城通りから見える住吉神社が魅力的
- ・街路樹が少ない
- ・萬福寺前の町並みを揃えたら美しい
- ・水害以降、統一された街づくりが検討されていない

提案

- ・水辺周りのイベントがあれば良い
- ・安全に水と親しめる空間を
- ・道に緑を増やして欲しい

- ・石畳の道路整備を拡大
- ・標示、まち歩きマップ作成
- ・道路ごとに色を統一
- ・それぞれに合った瓦で統一
- ・三宅御土居の当時のイメージ
→もっと分かりやすく



浸水前の昔話に花が咲き、以前あった街並みや空間、景色を取り戻すための工夫を皆で考えていきました。



住民自ら
歴史や背景を知り、
益田川を活かした空間
作りを行なっていく

歴史を感じられる
住民による
まちなみルール作り

七尾城通りを
歩きやすい
緑あふれる空間に

3班

メンバー
大久保 大庭 河野
島田 山田 小笠原 (TL)

*TL: テーブルリーダー



発見

- ・赤瓦が全ての地域にマッチしているわけではない
- ・板塀、ブロック塀、民家の壁の色がアンバランス

- ・意識のある人の家はバルコニーや塀なども木製で調和していた
- ・景観を乱している電線を地中へ
- ・水路を使った生活が伺える
- ・益田川の中洲に整備が必要だと感じた

提案

- ・地域の歴史を知るためのセミナーを住民に向けて行なってはどうか
- ・地域内で協定を作る

- ・参道の風格を保つため、普段から通りの美しさに気をつける
- ・市民へしっかりとPR
- ・互いが借景していることへの意識をもつ



公共施設など、大きな建物がその周辺の景観に与える影響は大きいので、十分考慮すべきだという意見もありました。



知る、見る、繋げる
そして行動
・実際にまちを見ながら歩く
・地域内での約束事

行政へ

- ・景観を考慮した公共施設づくり
- ・色や形に注意して

益田市民へ

- ・情報の発信
- ・広報誌の活用
- ・市民が情報提供
- ・CATVの活用



4班

メンバー
稲岡 弥重 友重 清也
野村 渡辺 (TL)

*TL: テーブルリーダー



エリアごとの 景観ルールづくり

- ・まちなみマップを作る
- ・自治会単位で話し合いをする
- ・参道の電柱の地中化

遊べる水辺空間づくり

- ・川沿いに遊歩道の整備
- ・川の草刈りや清掃をする

お寺と酒蔵の 繋がりをつくる

- ・酒蔵でコンサートや結婚式
- ・周辺のまちなみ (特に色彩!) の整備



まちあるきや班での議論を通して、歴史地区周辺が川や水との関わりが深いまちであることを、改めて再発見しました。

発見

- ・水路と土蔵の景観がマッチしている
- ・川に茂った草が景観の邪魔をしている
- ・萬福寺の参道の看板や電線が気になる

- ・歴史民俗資料館に大木がある
- ・立派な酒蔵が3か所もあるが、周辺の建物の景観が調和していない
- ・七尾城を中心に町の役割がある
→歴史的背景を感じる

提案

- ・川沿いに遊歩道などの整備
- ・マンガ「万福児」を使って益田をアピールするものを作る

- ・「まちなみマップ」を作って子どもたちに伝える
- ・1時間程度のウォーキングコースを作る
- ・エリアごとの景観形成 (城・寺・町など)

5班

メンバー
橋本 大畑 原
海邊 有福 近藤 (TL)

*TL: テーブルリーダー



発見

- ・まちを流れる水路に降りる階段がステキ
- ・建物に統一感がない (軒高さ、間口等)
- ・暁香寺付近の整備は良いが、電柱は景観を損なう

- ・60年前の家がポツポツ残り、木でできた建物が歴史的好い
- ・歴史民俗資料館の佇まいが良い
- ・島田家 (旅館) と歴史民俗資料館、背景の山のコントラストのある景観が良い

提案

- ・水路を知るためのイベント
- ・格子や木、白壁をいかに
- ・三宅御土居の将来像を市民に知ってもらおう (立看板等で)

- ・島田家と歴史民俗資料館の間には、周辺と調和する建物を
- ・まちなみルールと助成金をセットで、建物改修を推進
- ・川沿いの散歩道を整備し、名前をつける



中世のまちなみを考えたルール作りや益田川の風景について話し合いながら、歴史地区の景観を話し合いました。

益田川と繋がる風景

- ・益田川の散歩道整備
- ・水路探検隊!

大切にしたい中世のまちなみ

- ・統一したまちなみのルール
- ・格子窓の見直し、復活
- ・三宅御土居の整備

6班

メンバー
吉田 島川 石田 佐伯
正田 長谷川 梶本 (TL)

*TL: テーブルリーダー



発見

- ・民家の間を通る水路があり、のどかな情景
- ・一つの通りの建物も用途や色がバラバラ
- ・自動販売機や建物の色も、少し暗い暖色にした方が統一感が出るのでは?

- ・神社仏閣の説明看板が少ない
- ・七尾山の緑と瓦の色が調和していて良い
- ・大正、昭和の建物が多い
- ・酒造跡を活用したい
- ・昔の町名が分かるとおもしろそう

提案



中世だけでなく、昭和・大正から受け継がれているまちの資源をどう活かすかということについても話し合いました。

- ・古い町名を復活させる (地図づくり。道に表記する。)
- ・看板を工夫、統一する
- ・隠すゾーンを作る
- ・緑を増やし、けやきを植える
- ・益田らしい案内板に統一
- ・七尾城通りに灯かりを置く
- ・水辺空間の活用
- ・まち歩きマップ作成 (中世、近世、近代のブロック)

人づくり

- ・住民がまちづくりに関わる仕組みをつくる
- ・ちよつとガイド (専門家でない、まちの説明ができる人)を増やす

本通りをつくる

- ・おどい広場と本通りを結ぶ
- ・灯かりの演出
- ・灯けやきを植えて、緑の演出

川にシンボルステージを!

- ・益田川にシンボルステージ (広場)を作る
- ・みんなで水辺で遊ぶ!

統一感のある整備を!

- ・掲示板や自動販売機の色や素材を、歴史的な建物と合わせる
- ・いろんな看板も、デザインを共通させる (ゆるキャラを使う)

参加者の声

終わってみればあまりにも時間が短い。午前中から一日かけても価値あるワークショップ。

今回も違った魅力があり、新発見の連続でした。いつか自分のまちにも来てほしいです。

我がまちでの開催でした。普段何気なく見ていた景色が変わって見えたのが不思議でした。

歩いたのは初めての所もあり、新しい発見が個人的にもあった。景観は前に進む方向だけでなく、振り返ることも大事であることに気付かされた。

いつもは車で通っているまちなみも、歩いてみると良いところ、悪いところが自立つ。みんなで力を合わせる必要がある。

コースに見通しをもたせて進める方法は◎。ディスカッションは有意義だった。

非常に素晴らしい財産があることに気がきました。これをいかに協働で整理して、まちの活性化に活かすかが問題だと思います。

家や建物の繋がりをもっと大切に、歴史的な建物を大切にしていってほしいなと思います。

今までは社寺にはあまり興味がありませんでしたが、これからはまじめに見てみようかなと思いました。

どのように改善していくか話し合うことで、自分の意識改革になりました。

人によっていろいろ意見や視点があることに、改めて気付かされた。

文化遺産がまちの一部として自然に佇んでいるような景色、景観が維持していけると良いなと思います。

じっくり歩いて、歴史のあるまちと生活との関係について考える機会になったと思います。

発表は恥ずかしかったですが、これからこういうことも進んでやっていきたいです。

街並みや地割は後から整備できるものではない。それが残っていて、解決すべき課題が建物にあるのはむしろ幸運なのではないかとも思った。

まちの知らなかった場所や、細かい所が分かった。(たとえば、前映画館とか。)

脇田祥尚教授

ワークショップのまとめ

これまでのワークショップでは、「生活景」をキーワードに農村、漁村を対象に考えてきましたが、今回は益田の旧市街地を対象に歴史的市街地の町並みについて参加者みんなで考えました。それは益田市中心部の景観について考えた時、観光や歴史の拠点である萬福寺・三宅御土居界隈に焦点をあてる必要があると考えたからです。

その結果、多くの発見・提案が出されましたが、中でも「景観のルールづくり」は、ほとんどの班で提案されました。こうした規制は、私権を制限するものであるため地域の合意も含め慎重な議論が必要となりますが、昨年度、私たちの研究室が取り組んだ出雲大社門前の神門通りでは、1年でルールをつくりあげることができました。このことから、益田でも実現可能だと考えられますので、前向きに取り組めたらと思います。

また、自治会での話し合いを促進するといった提案や、マップ作成、ガイド育成、情報発信といったソフトの（市民レベルで今すぐできる）提案もありましたが、今日のようなワークショップを継続して行うことで、参加者のまちづくり力の向上が見込まれるとともに、ソフト（市民ができる活動）の動きを推進することにもつながります。そのため、来年度もこうした話し合いの機会が継続されるといいと思います。

3回のワークショップを通じて、農村、漁村、歴史的市街地それぞれの魅力や課題を発見・共有することができました。将来的に策定を予定している景観計画に、これまでのワークショップで指摘された事項をできるだけ反映することで、地域独自の景観資源を「守り育てるルール」をつくることができると考えています。



平成 23 年度益田市景観シンポジウム開催決定！！

日時 平成24年 2月11日（土） 会場 島根県芸術文化センターグラントワ 小ホール
13:00（開場） 13:30～16:00（予定） 〒698-0022 島根県益田市有明町 5-15



お問い合わせ

益田市建設部都市デザイン課
〒698-8650 益田市常盤町 1-1

TEL 0856-31-0351 e-mail toshi@city.masuda.lg.jp
FAX 0856-31-1480

ワークショップの様子を随時掲載！

益田市景観ブログ いいとこ、み～つけた！ <http://blog.canpan.info/mkeikan/>

近畿大学都市計画研究室 <http://390831.blog107.fc2.com/>